

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 02 月 15 日作成)

小委員会名	電磁環境基準小委員会		主 査 名：山本 恭 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会(電磁環境運営委員会)		委員長名：加藤 信介 主 査 名：黒崎 幸夫
設 置 期 間	2005 年 0 4 月 ~ 2007 年 0 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	建築電磁環境のうち、電磁シールドに係る技術指針の作成及び審議		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：2005 年 4 月に公募を行い、正式には 5 月からスタートした。		
	山本恭(大林組) 奥野功一(間組) 中村 裕介(奥村組) 高橋 好明(光洋産業) 遠藤哲夫(大成建設) 亀井義宣(竹中工務店) 星野康(日本板硝子環境アメニティ) 久保知也(フジタ) 石橋孝一(三井住友建設：退任) 森田篤(安藤建設：退任) 山本英史(国土交通省：ワザール)		
設置 WG (WG 名：目的)	WG は設置していない。		
2006 年度予算	24,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス： -	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 電磁シールド技術指針の第 1 次修正原稿は予定通り年度末に完成の予定。
委員会活動の問題点・課題	1. 審議のなかで電磁関係の用語統一について検討する必要が出てきた。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。
- * 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

<p>総合評価 (4 段階評価)</p>	<p>B</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>・電磁シールド技術指針として企画・計画、設計、施工、計測・評価及び維持管理の各ステップで考慮すべき事項についてまとめている。</p> <p>・当初の予定では指針の発行まで予定していたが、第1次原稿の取りまとめまでに留まった。</p> <p>・この原因としてはおもに次の2つの要因がある。 メンバーが多忙であることなどからステップによって差があり、足並みの揃っていないところが出てきている。</p> <p>またテップごとに使用している用語が統一されていないところが見えてきた。このため、指針の作成と並行して、用語と類義語・同義語を分けた建築電磁環境関連用語（案）を作成し、運営委員会のWGで横断的な検討を加えている。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。